

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

【ドル/円 週足】



この状況は当面変化がなく、年末年始に向けては100円～105円のレンジでの方向感のない動きが継続する可能性が高いでしょう。

しかし、ドルが下抜けするリスク徐々に高まっているように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

また、米国の大統領選が、今後の為替市場の大きなテーマとなってくると思われ、トランプ氏が大統領となる可能性を残しているうちは、市場参加者の警戒感は強く、リスク回避通貨として円が買い進まれる可能性を否定できません。

相場の流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年程度で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

ドル/円が下抜けしまった場合の目安としては、2011年の安値から2015年の高値の61.8%戻しで

ドル/円相場のトレード戦略

ある 95 円水準が考えられますが、90 円程度までオーバーシュートしてしまうリスクも警戒しておく必要があるかもしれません。

■ 短期展望

先週は、欧州の金融不安などを受けたリスクオフの流れから円高が進み、一時 100 円 09 銭をつける局面があったものの、米大統領候補である民主党のクリントン氏と共和党のトランプ氏によるテレビ討論会でクリントン氏が優位に論戦を進めたとの見方が多かったことや OPEC での石油減産合意の報道を受け、ドルの買戻しが出て 101 円台後半まで値を戻しました。

今週は、米国で ISM 製造業景況指数や雇用統計といった重要指標の発表があり、結果如何では波乱の可能性もあり注意は必要となるものの、100 円水準での底堅さと 102 円台の上値の重さが強く意識されることから、100 円～103 円でのレンジ相場の継続をメインシナリオと考えます。